

ほのぼのと雛にほひます雛の香に（森川 暁水）

平成26年度も末月、3月となりました。1日（日）は朝から冷たい雨が降っていました。そんな中を多くの来賓、保護者に御出席いただいて卒業式を行い、普通科94名、生物生産科24名、工業技術科35名、総合ビジネス科38名、あわせて191名の若者が、わが新見高校から巣立っていきました。

私事で恐縮ですが、私は彼らが入学する年に赴任し、今年3月末で退職します。彼らは私が高校生活の3年間を見届ける最後の学年となります。その点での感慨もありますが、彼らは南北両校地合同開催に改めた体育祭の創設、改善を牽引した中心学年です。生徒会の任期が違うのでひとくくりにはできませんが、生徒会顧問、保健体育科の教職員と粘り強い意見交換を重ね、「新高祭体育の部」の定着・発展に大いに寄与してくれました。また、以前にも紹介しましたが、普通科8期生の企画力と集中力、協働を組織する力にはめざましいものがありました。新見高校生はいい力を身に付けていると思います。

卒業式を終えても、国公立大前期の発表を控えていますし、中・後期試験のために登校して学習する生徒もいます。最後まで粘り強くがんばってほしいと願っています。

さて、3月といえば桃の節句・雛まつり。新見市内では、中央商店街を中心会場に「夢・出逢い にいみ雛まつり」が開催されていました（会期は27日から3月3日）。江戸時代の雛飾りや、終戦の年という物資窮乏期にあつらえられた段飾りなど見応えのある展示が商店や民家の玄関で公開されています。本校生物生産科も2年生が当番を担当しながら鉢植えのサイネリヤの販売で参加し、道行く観光客の皆さんから声をかけていただきました。

在校生は、第5回定期考査（学年末考査）を終え、春に向かって勉強に、部活動に再始動です。全国選抜大会に出場する卓球部（男子個人）の活躍に期待が高まります。下旬には学習合宿が予定されています。しっかり受験生になるための大事な関門といえます。

また、3月は新入生を迎え入れる季節です。2月に特別入学者選抜が行われましたが、今度は一般入学者選抜です。新たな仲間を得て、新見高校が次の年度の出発準備を整えようとしています。

今月もさまざまな話題をお届けできると思いますので、このページにたびたびおいでください。

平成27年3月吉日

岡山県立新見高等学校長  
松井 健一



北校地玄関の雛飾り



にいみ雛まつりに出店した生物生産科